札幌市文化財保存活用地域計画

さっぽろの歴史文化を未来へつなげるために

令和 2 年（2020 年）2 月
札 幌 市

概要版

目的と位置付け

背景と目的

背景

社会状況の変化
担い手減少
（過疎化・高齢化）
▼
次世代へ
継承困難

未指定の文化財
価値が見いだされないまま失われつつあるとの指摘

国から市町村へ
文化財の保存活用を進める計画策定推奨

札幌市の文化財
社会状況の変化 ▼
市民が意識する機会が少ない ▼
消滅、散逸の危機に

札幌市の動き
▶まちづくりに文化財等を活用
▶次世代に引き継ぐ施策の方向性を提示

文化庁
歴史文化基本構想を提唱
▼
改正文化財保護法の施行
文化財保存活用地域計画が規定

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」
歴史的建造物を観光資源に活用する施策の方向性提示

「札幌市文化芸術基本計画（第３期）」
文化財の保存と活用が重点施策の一つに

目的

文化財や歴史文化の価値と魅力を多くの市民が共有し、大切に使いながら将来に継承していくことで、市民にも来訪者にも魅力あるまちづくりを進めるための基本的な方針を示すために策定します。

位置付け

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」及び「札幌市文化芸術基本計画」を踏まえた、文化財の保存・活用の基本計画です。

札幌市まちづくり戦略ビジョン

目指すべき都市像	「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」 「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」
文化分野※における重要な視点	文化芸術・スポーツによる創造性の育み
基本目標	市民一人一人が魅力を再認識し発信するまちにします

※文化以外の分野
地域／経済／子ども・若者／安全・安心／環境／都市空間
▼
他の分野の計画等

整合・連携

札幌市文化芸術基本計画
▼
札幌市文化財保存活用地域計画

計画期間

令和２年度（2020 年度）～令和６年度（2024 年度）の５年間

札幌市の文化財

文化財の把握の方針

文化財保護法等による分類や指定等がなされているかに関わらず、地域の中で守り伝えられてきた資産を、文化財として取り扱い、文化財を単体ではなく関連する文化財や周辺環境との結びつきに着目し、一体的に把握します。

文化財の現状

指定等文化財は近代以降の建築物、北海道開拓に関する古文書が多く、「さっぽろ・ふるさと文化百選」には、これらに加え、公園や並木等が多く含まれます。このほか、景観制度による指定、北海道遺産の取組などがあります。

文化財保護法等による指定等文化財

有形文化財（建造物）
- 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）
- 旧札幌農学校演武場（時計台）
- 旧永山武四郎邸
- 旧札幌控訴院　など

有形文化財（美術工芸品等）
- カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）
- 新琴似村屯田兵村記録
- 札幌市 N30 遺跡出土品　など

無形文化財
- 丘珠獅子舞

民俗文化財
- アイヌのまるきぶね
- アイヌ古式舞踊

史跡名勝天然記念物
- 琴似屯田兵村兵屋跡
- 藻岩原始林
- 手稲山口バッタ塚　など

登録有形文化財
- 北星学園創立百周年記念館（旧北星女学校宣教師館）
- 北海道知事公館（旧三井クラブ）
- 北海道大学農学部博物館 バチェラー記念館　など

その他の制度による文化財

さっぽろ・ふるさと文化百選
- 旧札幌麦酒会社工場
- 北大ポプラ並木
- 札幌祭り　など

景観重要建造物
- 日本福音ルーテル札幌教会
- めばえ幼稚園

札幌景観資産
- 日本基督教団札幌教会礼拝堂
- 旧石山郵便局
- 旧市民会館前のハルニレ　など

北海道遺産
- 路面電車
- アイヌ語地名
- 札幌軟石　など

旧札幌控訴院

丘珠獅子舞

札幌市の歴史文化

札幌市の歴史文化の特徴

歴史文化の基盤となる自然環境や地形など（空間的観点）、社会を大きく変えた出来事など（地域社会的観点）、歴史文化の時代を超えた継承（歴史的観点）に着目し、札幌市の歴史文化の６つの特徴を整理しました。

札幌市の歴史文化の特徴

原始の昔から育まれた人々の暮らし

札幌で最初に人類がその足跡を残したのは、今から１万数千年前の旧石器文化の人々で、市内では、西岡台地、月寒台地などで旧石器文化の石器が見つかっています。

その後、今から約８千年前の縄文早期頃から、札幌南東部の丘陵・台地に人々が暮らすようになり、温暖で安定的な気候の縄文前期～中期頃には、丘陵・台地、扇状地、海岸砂丘など、北部の低湿地を取り囲むように、広い範囲に渡って人々が暮らすようになります。

今から約４千年前の縄文後期頃を境に再び気候が寒冷化し、遺跡の数も徐々に減少していきます。現在よりも寒冷な気候となった縄文晩期には、乾燥した札幌の北部低地にも人々はその活動圏を広げ、丘珠縄文遺跡（縄文晩期～続縄文）を遺したものと考えられます。

これ以降、続縄文文化、擦文文化の人々は、低地部にも積極的に生活圏を拡大していきます。この頃になると、人々は河川に沿うように集落を形成し、狩猟、採集のほか、サケを中心とする漁労、アワ、ヒエ、キビなどの雑穀栽培といった新たな生業も取り入れながら、本州や大陸との交易も行い、低地部の資源利用や河川流域のネットワークを重視する暮らしを定着させていったようです。

擦文土器

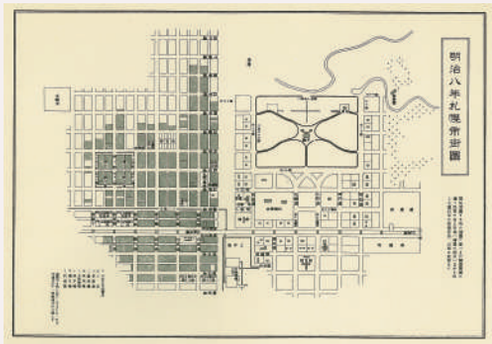
幕末に始まる諸村の開拓と開拓使による中心市街地の建設

石狩川の舟運による地の利に加え、外国の脅威に備えるため、松浦武四郎の推薦により、江戸幕府は札幌を北海道開拓の拠点としました。

以後、大友亀太郎による札幌元村の開村をはじめ、後に市域となる各地の農地等の開拓が盛んになります。

明治２年の開拓使設置により、明治政府の北海道開拓の拠点として現在の札幌市都心の基礎となる本府の建設が始まりました。

黒田清隆が開拓次官に就任した明治３年からは、大規模開拓に成功したアメリカに倣うため、ホーレス・ケプロンの構想「開拓使十年計画」により、多くの御雇い外国人の力を借りながら、都市建設、産業導入、人材育成などが進められました。



明治８年の札幌市街地
出典：さっぽろ文庫別冊地図（明治編）

オリンピックで変わった街の姿と市民の意識

昭和 47 年の冬季オリンピック札幌大会は、アジアで初めて開催された冬季オリンピックであり、札幌の街の変化に加えて国際化を促すとともに、市民の誇りやアイデンティティの形成にも貢献したと考えられます。

大会にあわせて多くの競技施設が設けられ、地下鉄南北線の開通や、さっぽろ地下街の開業、民間資本による建設ラッシュも相まって、街並みや市民生活に様々な変化がもたらされました。

オリンピックで使用された施設の中には、市内の展望スポットとして人気が高い大倉山や宮の森ジャンプ競技場など、今なお市民や観光客に親しまれているものも多く、アルペンスキー競技の会場となった手稲山のスキー場には現在も聖火台が残り、訪れる人々にその歴史を伝えています。

大倉山ジャンプ競技場

都心で楽しむ季節の催し・風物詩

札幌の四季が鮮明なのは、夏と冬の日照量較差が大きい北緯 45 度付近に位置するためです。また、大都市でありながら豊かな自然にも恵まれて、多雪であることも、季節の変化を印象付ける要素といえます。

札幌市には、明治５年に始まる北海道神宮例祭を起源に１世紀以上歴史のある「札幌まつり」など、市街地で楽しめる風物詩のような催事やイベントが多くあります。

大通公園は、広大なオープンスペースを生かした催事場として、市民や観光客に親しまれてきました。昭和 25 年から開催されている「さっぽろ雪まつり」をはじめ、「ライラックまつり」や「大通ビアガーデン」、近年では北海道の食を楽しむ「さっぽろオータムフェスト」が人気を集めています。

札幌まつり 1960 年
札幌市公文書館所蔵

札幌まつり
札幌市公文書館所蔵

積雪寒冷地に成立した大都市

札幌は、人口約 197 万人の大都市でありながら、年間６mの積雪に見舞われます。人々の暮らしが、これほど多くの雪と向き合う大都市は世界でも珍しく、このことは、札幌市民が、雪や寒さの中で快適に暮らすため、創意工夫を重ねてきた結果といえます。

明治の初め頃は、人力で雪を踏みしめて道を付けていましたが、三角ぞり、ササラ電車、アメリカ軍から借用したブルドーザーが除雪機械として登場し、昭和47 年の札幌オリンピック開催を機に近代的な除排雪体制が整備されました。

また、冷気を遮断する二重窓、雪の荷重などを軽減できる急勾配の三角屋根や近年の無落雪屋根など、積雪寒冷地に住むための工夫は住宅地の景観にも現れています。

三角屋根の家
札幌市公文書館所蔵

継承されるアイヌ文化

札幌の都市形成過程の大きな特徴のひとつとして、先住民族であるアイヌ民族が生活していたところに、移民が移り住んだことが考えられます。

万延元年頃の絵図などにはアイヌ民族の名が見え、都市が形成される遥か以前から、人々が暮らすのに適した土地はアイヌ民族が利用していたことが分かります。

アイヌ民族は、都市開発や国の政策などで生活を大きく変えられ、差別などの苦難を経験しながらも、その尊厳と独自の文化を今日まで伝えてきました。アイヌ古式舞踊や、儀礼を受け継ぐ人々の活動に加え、アイヌ文化交流センター「札幌ピリカコタン」、「アイヌ文化を発信する空間（ミナパ）」が誕生し、アイヌ民族の生活や文化などが発信されています。

また、札幌には、アイヌ語に由来する地名が多くあります。アイヌ語の地名は、自然地形や地質的特徴を言い表したものが多く、アイヌ民族がその土地をどう名付けたかを知ることは、アイヌ民族の暮らしや文化について考えるきっかけにもなります。

アシリチェプノミ（新しい鮭を迎える儀式）

ほかにも　市民ワークショップ等で話し合われた歴史文化の特徴

- 各地に開かれた屯田兵村
- 今も親しまれる地産建材
- 「馬鉄」に始まった路面電車
- ななめ通りから見る札幌村の歴史
- 手稲山麓に残る鉱山村の記憶
- 水の恵みに支えられた西区の稲作文化
- 日本酪農の父が残した足跡
- 歩兵第 25 連隊のまち月寒

関連文化財群の考え方

歴史文化の価値を市民とともに発見し、札幌の魅力資源として総合的に保存・活用するための枠組として、関連文化財群の考え方を用います。

概ね以下の要件を備えた「文化財や周辺環境のまとまり」をさまざまな切り口で選び、札幌らしさを表す関連文化財群を順次設定していきます。

【札幌市の関連文化財群を設定する際の要件】

- 歴史や文化の特徴をよく表す文化財群を一つのまとまりとして捉えることで、札幌の個性や魅力がより際立つようになるもの
- 大人から子どもまで楽しめるストーリーで説明され、札幌の歴史文化の魅力の PR や、理解の促進に貢献するもの
- 市民が愛着や誇りを感じ、自ら守り伝え、その魅力を誰かに伝えたいと感じるもの

文化財の保存・活用の方針

保存・活用の課題

文化芸術意識調査等の各種調査、計画策定過程にあたり開催した有識者等からなる委員会の意見等より各観点で課題を整理しました。

調査・把握	共有・発信	保存・伝承	活用	連携・協働
調査・把握が進んでいない分野がある 等	文化財情報へのアクセス環境未整備 等	費用や担い手の確保困難 等	幅広い活用モデル不足 等	関係者のネットワーク構築が不十分 等

保存・活用の方針

現状と課題等を踏まえ、目指す姿につなげるため基本方針に基づき総合的に取り組みます。

目指す姿

文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引継いでいく、
歴史文化の魅力あふれる都市

目指す姿の実現に向けた５つのアクション

基本方針１

文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める

Action1 見つける
調査・把握の課題に対する取組
文化財や周辺環境を掘り起こし、歴史文化の新たな価値を発見する

Action2 共有する
共有・発信の課題に対する取組
文化財の価値や歴史文化の魅力を、社会全体で共有する

基本方針２

社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える

Action3 伝える
保存・伝承の課題に対する取組
文化財の価値を保ち、歴史文化の魅力を、次の世代へ引き継ぐ

Action4 生かす
活用の課題に対する取組
観光や地域振興、教育など、まちづくりの魅力資源として使い、生かす

Action5 つながる
連携・協働の課題に対する取組
行政、市民、企業等の事業者、研究者や専門家が連携・協働する体制をつくる

それぞれに期待される役割（例）

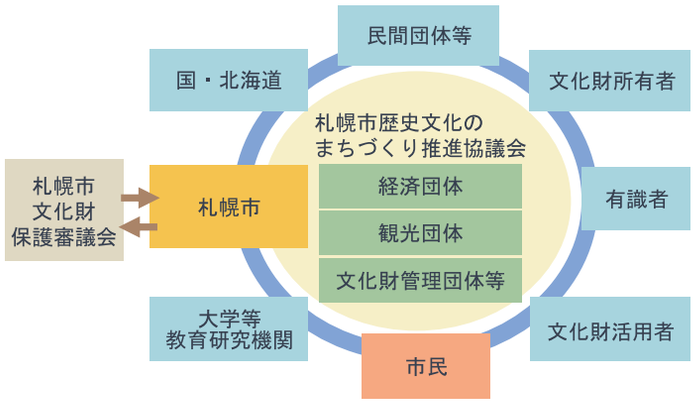
行政	有識者	文化財所有者	文化財活用者	市民
文化財の保存・活用方針を示す	文化財に関する相談対応や助言を言う	所有する文化財を適切に次世代へ継承する	文化財を活用した事業の展開	身近な文化財や札幌の歴史について知る

文化財の保存・活用の推進体制

連携・協働を促す体制づくり

社会全体で取り組む体制整備を進めるため、文化財の保存・活用を主導する関係者で構成する協議会を設置します。

協議会の取組
- 計画の普及啓発等
- 関連文化財群とストーリーの設定に向けた取組
- 計画を生かした観光拠点づくりの推進　など



連携・協働を促す体制イメージ

文化財の保存・活用に関する措置

保存・活用に関する措置

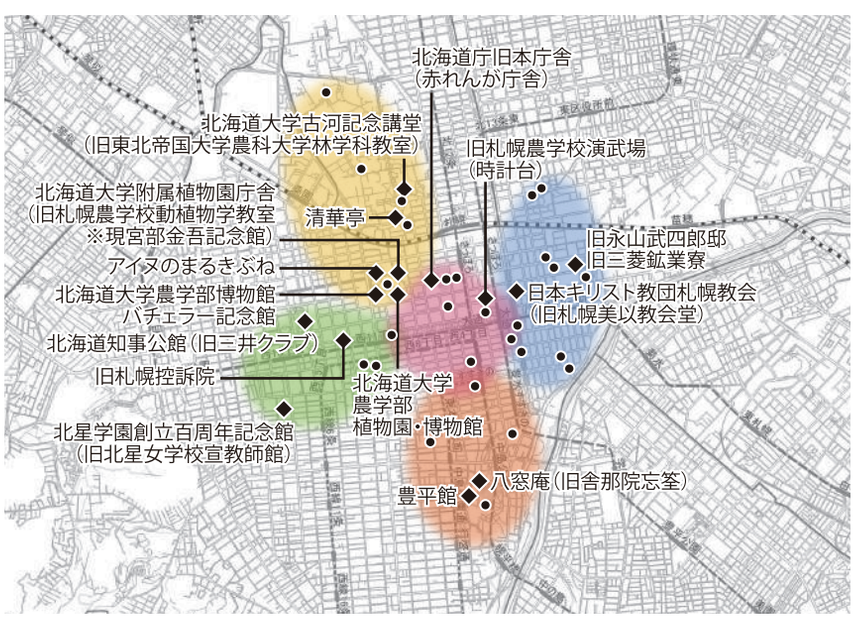
措置についての考え方

保存・活用に関する措置（取組）を考える上で、札幌の文化財の基本的な位置付けを以下のとおり考えます。

札幌の歴史を伝え、来訪者を魅了する都心エリアの文化財

観光客の往来が盛んな都心エリアに点在する文化財の価値や魅力を損なわないよう、良好な状態で保存することが「歴史文化の魅力あふれる都市」の実現につながります。

都心エリアは、宿泊、飲食、商業施設が集中し、食やイベントなどを目的とした滞在と連動した観光需要が大きいことから、これらの文化財をパッケージとして「見せる」ことで札幌の文化財の魅力を分かりやすく伝え、札幌の歴史文化を楽しむ観光拠点形成を目指します。



都心エリアのイメージ

市民のふるさと意識を育む各地域の文化財

地域の個性を反映する文化財は、地域の歴史文化の正しい理解に欠かせない財産として可能な限り適切に公開し、市民等が文化財に親しみ、その知識と理解を深める場を提供することを目指します。

行政や専門家は、地域の自主性を尊重しながら、適宜、文化財の保存や地域づくりのために必要となる支援や調整等を行い、地域における文化財の継承を促します。

Action1 見つける

調査・把握の課題に対する取組

- ▶ 文化財の掘り起こしを目的とした市民ワークショップ
  - ・市民等が文化財を掘り起こし、観光・地域づくりなどの活用方法について意見交換を行うワークショップ
- ▶ 文化財調査の情報更新
- ▶ 文化財保護指導員等による現地調査

平成 30 年度市民ワークショップの様子

Action2 共有する

共有・発信の課題に対する取組

- ▶ 文化財情報のデータベース化
- ▶ シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」の開催
  - ・文化財や歴史文化の価値と魅力を普及・啓発するシンポジウム
- ▶ 札幌市埋蔵文化財センターの管理・運営
  - ・埋蔵文化財に関する相談対応や発掘調査、展示室における埋蔵文化財の常設展示
- ▶ 地域資源の魅力発信
- ▶ アイヌ文化交流センター・アイヌ文化を発信する空間の管理運営
- ▶ 観光情報発信事業
- ▶ 学校教育における文化財や歴史文化の学習

平成 30 年度れきぶんフェスの様子

埋蔵文化財センターでの校外学習の様子

Action3 伝える

保存・伝承の課題に対する取組

- ▶ 文化財施設の効率的な維持・保全
  - ・市が所有する文化財等11施設の中・長期計画に従った保全工事・耐震化
- ▶ 郷土資料館の維持・管理
- ▶ 無形文化財の保存・伝承支援
- ▶ 文化財の防災・防犯対策
- ▶ 災害発生時の対応
- ▶ 景観計画推進
- ▶ アイヌ伝統文化振興

耐震化工事の対象施設の
ひとつである清華亭

Action4 生かす

活用の課題に対する取組

- ▶「関連文化財群とストーリー」の活用モデルづくり
  - ・歴史文化のストーリーと、文化財のつながりを生かした多様な活用モデルを見出す
- ▶ サイン整備、解説等の整備（多言語化）
- ▶ ボランティアガイド育成支援
- ▶ アイヌ文化交流センターリフレッシュ事業
  - ・老朽化したアイヌ文化交流センターの屋内外展示物等の更新・改修等
- ▶ 観光資源発掘・魅力創出事業
- ▶ ICTを活用した観光マーケティング推進事業
- ▶ 指定管理者による文化財施設の管理・運営
- ▶ 郷土資料館支援の手法検討
- ▶ 博物館活動推進
- ▶ 体験学習施設「丘珠縄文遺跡」の管理・運営
- ▶ 市民に多様な学習機会を提供
- ▶ パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌（PMF）の開催

都心の文化財・歴史文化観光拠点の
中心イメージのひとつである
旧札幌農学校演武場

アイヌ文化交流センターに
現在展示されているチセ

Action5 つながる

連携・協働の課題に対する取組

- ▶ 保存・活用に関する課題解決支援
- ▶ 関係者と経済観光団体等の交流機会創出
- ▶ 札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会の運営
- ▶ 重要文化財北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）保存活用計画との連携
  - ・今後もより一層有効に活用していくための計画との連携
- ▶ 北海道大学キャンパスマスタープラン2018との連携

北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）
リニューアル後のフロアイメージ
（1階部分）

札幌市文化財保存活用地域計画
【概要版】

発行：令和２年（2020 年）３月
企画・編集：札幌市市民文化局文化部文化財課
住所：札幌市中央区北１条西２丁目札幌時計台ビル 10 階
URL：http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/index.html

文化庁
文化芸術振興費補助金
（地域文化財総合活用推進事業）

さっぽろ市
02-D05-19-2804
31-2-1789